JR東日本輸送サービス労働組合
JR East Transport Service Worker's Union
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

THE JTSU-E JOURNAL

公式ホームページ　公式SNS (X)

所在地：〒135-0044 東京都江東区越中島3-5-10 ｜電　話：03-6458-5603 ｜ＦＡＸ：03-6458-5605 ｜Ｈ　Ｐ：http://jtsu-e.com ｜メール：union@jtsu-e.com ｜発行人：佐々木　宏　充 ｜編集人：奥　冨　　亨

2025年 2月22日　第60号

月１回発行／１部20円
（組合員の購読料は組合費に含む）

第５回定期中央委員会を開催

すべての議事を満場一致で承認！

２月１０日 大田区産業プラザPiO

結成から５周年！
職場からつくり出した輸送サービス労組運動による到達点を確認し、更なる飛躍を実現しよう！

可決された委員会スローガン

ＪＲ東日本輸送サービス労働組合は結成から５年!!
“すべての仲間”と創造した「共感」と「共創」を更なる“飛躍”へ！

１．人を大切にする“日常活動”を基礎に、一切の労組ハラスメントと法令違反を是正し、
輸送サービス労組運動の飛躍と未来のために、“すべての仲間”とともに立ち上がろう！

１．働きがい・生きがい・こころの豊かさを保障する「働き方」と「賃金のあり方」を考え、
“すべての仲間”とともにつくり出す「２０２５ JTSU春闘」で
“賃金のベースアップ”と“真の笑顔と活気あふれる職場”を実現しよう！

１．「命をあずかる労働」という使命と仕事に向き合い、
地域・社会から必要とされるＪＲ東日本を創造し、
“すべての仲間”とともに安全な鉄道を走らせ続けよう！

■ 主催者あいさつ（要旨）

中央執行委員長　佐々木　宏充

「2025 JTSU春闘」を すべての仲間の総力で勝利しよう！

「２０２５ JTSU春闘」は全組合員一律「１５，５００円」の純ベアを要求します。要求実現に向けて、全職場からたたかいを大きくつくり出していきましょう。JR東日本の第３四半期決算は単体で対前年１２９％の四半期純利益を生み出しています。この30年間、日本の労働者の賃金が上がっていない、格差がどんどん開く現実は生涯賃金にも大きく影響していきます。喜勢社長の年頭あいさつでも「人事賃金制度の構造的な改正に着手する」と述べたことで、今後ますます格差や競争を生み出すものになることは容易に想像できます。改めて、私たち鉄道で働く労働者にとって相応しい人事賃金制度とはどうあるべきか。エッセンシャルワークの特に日本における低水準の給与をいかに底上げするべきか。鉄道にとどまらず、バスやメカトロサービスで働く仲間たちとともに連帯し、公共交通に携わる労働者の賃金はいかにあるべきか具体的に検討していかなければなりません。さらに、エルダー先の労働条件・労働環境等、国鉄改革で苦闘した先輩たちが劣悪な状況で就労を余儀なくされている現実も報告され、改善されていないのも現実です。今後は、50代での出向、転籍など様々な動きなども予測しつつ、人にやさしい会社・企業を私たちから実現させるために取り組みを強化していきます。また、時短・休日増などの問題は、心の健康にもつながることであり、実質的な賃上げにもつながることから大きく議論を深め、要求の前進をかち取っていきます。

会社による一方的な施策実施で現場は混乱 私たちの手で安全・サービスの向上を

現在行われている「融合と連携」の名のもと、兼務や統括センター化によって労働時間や働き方など、大きな変化の中で過度な要員不足が意図的に作られ、職場は振り回されています。労働者代表者選挙のたたかいや36協定の検証なども具体的に取り組み、適正な要員配置なども求め改善していきます。

東京地本が集会を開催し「ワンマン運転施策」に反対することを明確に掲げ、安全で安心して利用できる鉄道の再生を目指してたたかう方向性を確立しました。それは単に「ワンマン運転反対」ということではなく、この間の労使議論を形骸化し、会社が職場の声を無視し一方的に施策を進めていくことは、私たちや利用者の命をも奪いかねない事態を生み出すことになる恐れがあるからです。

喜勢社長の年頭挨拶で「社友会を経営のパートナー」と敢えて言っていることは看過できません。そもそも18春闘を契機にした労働組合への脱退強要は誰が仕掛けたのか、私たちは仲間と命がけでたたかった一昨年8月10日の4名訴訟の勝利で、会社ぐるみの組織的な関与までは認められませんでしたが、当時の区長らが脱退強要を行ったことや、他の職場でも同様のことが行われていたことが裁判によってはっきりと認定されました。さらにそのことに関わった現場長をそのまま優遇し、重要なポストに配置することは絶対に認めるわけにはいきません。そのような現状で社友会をパートナーと言うこと自体、自作自演と言っても過言ではありません。このような憲法に基づかないものをあえて法律を作ってやり抜こうとしていることの狙いをしっかり暴いていきます。

結成から5年、今こそ結成の原点に起ち 組織の強化・拡大を実現しよう！

２０２５年２月10日で、輸送サービス労組は5歳になりました。向こう5年を展望し、困難な道を切り拓いていくために7月の定期大会も含めて、あらゆる取り組みに「5周年記念」という文言を入れてこの5年を振り返り、全組合員の英知を結集して全てのたたかいを組織強化・拡大につなげるための1年にしていきたいと思います。この5年間での喜び・怒り・悔しさ・悲しさ・楽しさなど組合員一人ひとりの率直な意見や声を大切にし、常に困ったり悩んだりしている組合員とともにたたかえる組織へとアップデートしていき、切磋琢磨し、さらに輸送サービス労組を大きく強くつくり出していきます。

２０２０年4月から始まった「新たなジョブローテーション」施策は、組合員にとどまらず多くの若者たちが先行きの不安を抱え、退職や病に追い込まれています。撤廃、廃止に向けて仲間と支え合い、つながり合いながらあらゆる方策を打ち出していきます。そうしなければ、利用者の命を奪いかねない事態がいつ起きてもおかしくありません。

今一度、歴史を振り返り「命」を第一に 輸送サービス労組運動を大きくつくり出そう！

今年は戦後80年、日航機御巣鷹山事故から40年、阪神淡路大震災から30年、福知山線・羽越線事故からそれぞれ20年の年です。改めて、命を大切にする社会を目指し、命を守るためには何をなすべきかを考えるきっかけの年にしたいと思います。特に日本は、超高齢化社会を迎えている中で、稼ぐことだけが目指され、経済活動が中心の社会になればそのしわ寄せは弱いところに現れ、命に直結するようなことが起きてしまいます。改めて、歴史を振り返る、身の丈に合った人間の活動をすることも求めなければなりません。また、この気候危機は、人間がこれまで行ってきた環境破壊に対する警鐘であるとしっかり受け止め、ＳＤＧｓの精神を今こそ振り返り、地球環境を守り、人間が自然と調和できる社会的使命を果たすための輸送サービス労組運動の新たな地平を全組合員で切り拓いていきましょう。

第５回定期中央委員会を、向こう5年のたたかいの展望を切り拓く第一歩として、みんなでつくり出すことをお願いして、主催者を代表してのあいさつとします。